地域の救急医療を担う
高次救命治療センター

ドクターヘリって?!

救急医療用の医療機器を装備したヘリコプターで、医師や看護師等が同乗して救急現場等に向かい、現場から医療機関に搬送するまでの間、患者に救命医療を行うことができる専用ヘリコプターです。

岐阜大学医学部附属病院は、岐阜県のドクターヘリ事業の基地病院に指定され、平成23年2月から本格運用を行っています。日中の時間帯のみですが、年間365日休みなしの出動体制を整えており、平成26年度のフライト実績はおよそ450回にも及びます。

ドクターヘリには、患者を迅速に搬送、処置ができるよう「救急医療支援情報流通システム(GEMITS)」(注)が搭載されています。

(注) GEMITS(Global Emergency Medical supporting Intelligence Transport System、救急医療体制支援システム) とは急性期医療に必要な判断の元となる知識 (Intelligence) を病院前から、病院内、病院間そして最後には介護まで連携するためのシステムであり、救急医療の全面最適化を推進するため総務省、経済産業省の実証事業における成果で構築検証されたプラットフォーム (プロジェクトリーダー:小倉真治)

~私たちがヘリに搭乗しています~

高次救命治療センター
医師・臨床講師 橋本孝治 (写真左)

岐阜県の救急医療におけるドクターヘリの役割は非常に大きいものと思います。岐阜県は山地が多い地形で、山間部で急患、特に重傷な患者さんが発生しても近隣の医療機関に搬送されるまでに30分～1時間近くかかる地域が多くあります。この30分～1時間は重症患者さんにはあまりにも大きく負担となります。ヘリコプターを使えば岐阜県最北部の飛騨地方には30～35分程度で到達、専門医による治療が即座に開始され、外傷患者さんのみならず脳や心臓の内因性の急性重症疾患の患者さんの予後改善に大きく貢献しています。当センターでは、専門にトレーニングされた医師1名と看護師1名が日々ヘリコプター専任で従事し、消防の要請から約3分で離陸できるように常に待機しています。どんな疾患にも必要最低限の応急処置を即座に行い、現場で安定化させ、早く、安全に医療機関に搬送します。医師と看護師二人で、しかも薬剤や医療資機材はかなり限られています。が、そんな一見頼りないかもしれない手でも、必ず救える命があることを信じて私たちはドクターヘリの医療に立ち向かっています。

高次救急治療センター 集中治療部門・救急部門
看護師 本間 千絵美 (写真右)

病院内では多くの人員や十分な資源の中で、患者さんの治療にあたることができます。しかし、ドクターヘリでは医師と看護師一名ずつしか搭乗しておらず、資源も人命救助のための必要最小限のものしかありません。いち早く資源豊かな病院に搬送するために、現場滞在時間15分を目標に診療活動をしており、現場の救急隊も含めたチームワークがとても大切になります。患者さんや家族にとって衝撃の大きい場面に関わる医療者として、少しでも安心感を与えることができるように日々精進していきたいと思います。